

市の人口と予算(2月1日現在)	
人口・世帯( )内は前月比/前年同月比	
合計	= 172,535人 (+201/+2,962)
男	= 85,766人 (+113/+1,533)
女	= 86,769人 (+88/+1,429)
世帯	= 70,531世帯(+91/+1,811)
予算	
一般会計	= 503億2,278万4千円
特別・企業会計	= 406億6,099万9千円



流山市民まつりで人気の「森のグルメレストラン」(市総合運動公園)



毎年、流山おおたかの森駅南口都市市場で開催する花と緑の祭典「流山グリーンフェスティバル」(4面)



流山セントラルパーク駅東側に広がる市総合運動公園の緑

特集：緑の取り組み

市民・企業・市でつくる いつまでもこれからも

## 都心から一番近い森のまち

「つくばエクスプレス」(以下：TX)が開通して今年で10年目を迎えます。この間、TX沿線の市街地の整備に伴い、市の人口は約2万人増加し、今もなお増え続けています。

一方で区画整理が進むにつれ、豊かだった市内の緑は減少しています。沿線を整備し、良質なまちをつくるための区画整理事業は、「宅鉄法(下記)」に基づくものですが、市では、市民の皆さんや企業と一体となって、失われた緑を少しでも取り戻すためのいくつかの取り組みを行っています。

今号では、いつまでも流山が「都心から一番近い森のまち」であるために、緑を回復し、増やすために進めているまちづくりをご紹介します。園みどりの課 ☎715016092

### 失われた緑はどうなるの？

市では、失われた緑を回復するために「流山グリーンチェーン戦略」をはじめとした、さまざまな取り組みを行っています。行政が主導する政策だけでなく、市民や企業が連携して緑あるまちづくりを進めています。では、どのように緑を回復しているのか、市民や企業、市の具体的な取り組みをご紹介します(2~4面参照)。

### 流山の緑はどうして減っているの？

TX沿線は総合的な視点で計画された「土地区画整理事業」が行われており、「宅鉄法(下記)」に基づき鉄道用地もその区画整理によって生み出しています。健全な市街地をつくり、良質な住宅地を供給していくためには土地の区画をきちんと整えるとともに、道路や公園などの公共施設を新たに設置したり、改良したりする必要があります。しかし、従来の森などが切り開かれ、市内の緑の減少の一因になっています。

#### 「宅鉄法」とは

正式名称は「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法」といい、新たに鉄道が整備されることで、大量の住宅地の供給が必要とされる地域で、宅地の開発と鉄道の整備を総合的に行い、整備事業を着実に、そして円滑に推進することを目的とした法律です。



造成中の流山おおたかの森駅南口(平成18年2月)

# 緑を増やす取り組み

## まちなか森づくりプロジェクトなどで約1万5,000本を植樹

「まちなか森づくりプロジェクト」は、学校や保育所の一部や公共施設をはじめ、用水路跡地や道路用地などの“ちょっとしたスペース”に植樹を行い、まちの中に緑をつくる取り組みです。

●環境政策・放射能対策課 ☎7150-6083 / みどりの課 ☎7150-6092

### 公共施設を中心に植樹

平成22年度に西深井小学校で児童が中心となって行った約600本の苗木の植樹から始まり、平成25年度には市内5カ所の公共施設で約10,400本の苗木を植樹しました。今年度は、一般社団法人千葉県トラック協会が、植樹活動による地球温暖化対策への貢献事業として進める「トラックの森づくり」を、「まちなか森づくりプロジェクト」の一環として行い、流山おおたかの森スポーツフィールドに、11種類、約200本の苗木を子どもたちと植樹しました。これまでに、延べ約2,000人の市民の方などにご参加いただき、約11,200本の苗木を植樹しています。



自治会の皆さんが新東谷防災広場に200本の苗木を植樹



流山市少年野球連盟、流山市少年サッカー連盟に所属する子どもたちなど約100人が参加して、流山おおたかの森スポーツフィールドに約200本の苗木を植樹

### 坂川用水路跡地がグリーンベルトに

農業用水路としての役目を終えた南流山の坂川用水路の跡地では、地元自治会と協議の結果、埋め立てを行い、昨年3月に全長約800メートルにわたり、防火林などにも用いられる常緑樹のタブノキと、春先に花をつけるツツジを植えました。坂川用水路跡地を含め駅前などにも、これまでに高低木約3,100本を植樹しました。



全長約800メートルのグリーンベルト（緑地帯）に生まれ変わった坂川用水路跡地

### 小・中学校などではグリーンウェイブの植樹に参加

国連が定める国際生物多様性の日（5月22日）に世界各地で植樹などを行う「グリーンウェイブ（緑の波）」事業として、市では、次世代を担う子どもたちに植樹をきっかけとした生物多様性の広報、教育、普及啓発を推進するため、平成22年度から毎年、植樹を実施しています。今年度は、市内小・中学校6校で114本の植樹を行い、これまでに54カ所に約390本を植樹しました。



向小金保育所の庭にキンモクセイを植樹する子どもたち

### 生け垣設置に補助金

#### ブロック塀を緑の生け垣に

市では、「みどりのまちなみ整備事業」として、市内に住宅を所有して住んでいる方または建てようとする方を対象として、生け垣を設置する際に補助金を交付しています。

補助制度では、設置する生け垣1メートル当たり4,000円を上限として、設置にかかる経費の半額を補助します。枯れた既存の生け垣を撤去し、植え替える方には最大3万円、新たに生け垣を設置する方には最大4万円、生け垣と同時に流山市グリーンチェーン認定（2面）を受けた方には最大5万円を交付します。

申請に当たっては、流山市税を完納していること、生け垣の全体延長が3メートル以上であることなどの条件があります。必ず設置工事前に、みどりの課までお問い合わせください。

●みどりの課 ☎7150-6092 ●1315



生け垣のある街並み

### その他の緑化事業

千葉県緑化推進委員会による公共施設などの環境緑化事業が、平成25年度に南部柔道場駐車場で実施され、ハナミズキやベニカナメモチなど165本が植樹されました。

この事業は、県内12カ所のゴルフ場の協力で、ゴルフファンから募った緑化協力が原資となっています。



# 緑を回復する流山グリーンチェーン戦略

点の緑を線につなげて面に

## グリーンチェーン戦略のしくみ

「流山グリーンチェーン戦略」は、市民・企業・市が連携して、点の緑を線に、そして面として市全体に広げていこうという取り組みです。市では、住宅や施設の建設時にヒートアイランド現象の抑制を図るため、「熱をいかに抑えるか」、そして熱を抑えるために「いかに緑の力を最大限に使うか」にポイントを置いた「7つの指標（右図参照）」を掲げています。

この「7つの指標」に基づき、建築物を評価・認定し、環境価値の高い緑豊かなまちを創造することを目的としたものが、「流山市グリーンチェーン認定（レベル1~3）」です。なお、建設時だけでなく既存の住宅も指標を満たす物件は認定を取得できます。



強い日射しを防ぐため道路沿いに背の高い木を植えることがポイント

### 7つの指標

<b>指標1 道路表面の温度上昇抑制</b> ▶高木で道路や壁が熱くなるを防ぐ 	<b>指標2 敷地間通風の確保</b> ▶塀ではなく生け垣にすることで風通しをよくする 
<b>指標3 道路面からの放射熱侵入抑制</b> ▶生け垣などで道路からの照り返しを防ぐ 	<b>指標4 敷地面表面及び建物外壁の温度上昇抑制</b> ▶木陰や木の蒸散作用で壁などの温度が上がるを防ぐ 
その他に... 指標5 排熱とCO2排出の抑制 指標7 住戸内通風の確保	<b>指標6 住戸断熱性能の確保</b> 

## ますます増えるグリーンチェーン認定住宅と施設

流山グリーンチェーン戦略では、「流山市グリーンチェーン認定」を設けており、平成18年度からこれまでに199件（約3,600戸）の住宅や施設が認定を受けています。認定を受けた物件の総緑化面積は、約52,000㎡でテニスコート約80面分に相当します。認定を受けると、右記の特典があります。



グリーンチェーン認定マーク

認定については、みどりの課（☎7150-6092）までお問い合わせください。

#### ①認定物件を購入する際の住宅ローン金利を割引

流山市グリーンチェーン認定を受けた物件を購入する際は、市内の金融機関（JAとうかつ中央、千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行、常陽銀行）の金利の割引を受けることができます。また、注文住宅の場合、外構について流山市グリーンチェーン認定を受けていただく住宅ローンの金利が割引対象となります。対象の住宅を購入される際は、それぞれの金融機関にお問い合わせいただき、ご検討ください。

#### ②剪定枝の処分費が無料

「グリーンチェーン認定書」をお持ちの方は、森のまちエコセンターへの剪定枝（切った枝など）の持ち込みが無料です。

#### ③生け垣を設置する際の補助金の限度額がアップ（3面参照）

## 子育てしながら緑も育てています

飯野貴雄さん・佳奈子さん（西初石在住）

自然に恵まれた、つくば市と秩父市が故郷の夫婦なので、緑が多く都心からも近い流山で、マイホームを購入しました。ご近所は子育て中の同世代が多く、夏の休日などは、ある家が庭木の剪定を始めると、ほかの家からも人が現れ、通り沿いにパパたちが並んでハサミを動かす光景も見られます。情報交換も自然にでき、緑でも子育てでもコミュニケーションが深まるおつきあいを楽しんでいます。



### インタビュー

## より快適な緑の環境を

千葉大学大学院園芸学研究所 助教 近江慶光

流山市では、つくばエクスプレス開通以来の急速な発展の中でマンションや戸建て住宅などの建設が数多く行われていますが、それらの多くには流山グリーンチェーン戦略に沿った緑化が施され、新しい街並みを魅力的なものとしています。

また、緑の環境形成に重点を置いた流山グリーンチェーン戦略によって「流山ブランド」のイメージが定着し、開発企業各社は、流山市内に良質な緑環境を創出している一方、近隣市においてもこの経験を応用しています。まさに東葛地域の環境政策を流山市がリードしている状況にあります。今後も市民として次世代にとってより快適な居住環境を提供していくためには、「流山グリーンチェーン戦略」を一層発展させていくことが求められていると思います。



昨年11月に行われたグリーンチェーン講演会で緑化施策について説明する近江助教

## 花と緑のボランティア

### 身近な公園の緑を市民の手で…

花や緑で、よりよいまちづくりのお手伝いをしていただく制度が「花と緑のボランティア」登録制度です。現在、個人・団体を合わせて約530人の方々に登録していただき、身近な公園の清掃や草取り、草花の手入れなどで、まちづくりに携わっていただいています。

### ボランティア登録を募集中！

市では、「花と緑のボランティア」を随時募集しています。ボランティア登録者には、活動のサポートとして、市で保険加入や看板の設置をさせていただきます。また、登録者を対象にした「花に関する講習会」も実施しています。詳細は、みどりの課（☎7150-6092）までお問い合わせください。



花を植えるボランティアの皆さん

# 市民による緑のまちづくり

## オープンガーデン

市内ガーデニング愛好家らによって結成された「ながれやまガーデニングクラブ花恋人」主催のオープンガーデンは、平成17年に千葉県内では初めて行われました。

毎年5月に約30庭が一般公開され、昨年の第10回流山オープンガーデンでは、3日間で全国各地から約1万5千人の方が訪れました。

今年は、5月17日(日)から3日間にわたって行われる予定です。詳細は、今後広報ながれやまなどでお知らせします。



昨年5月に公開された同クラブ会員・米田さん(下記)の自慢の庭

### まちの緑を守るのは みんなの愛と行動力です

#### インタビュー

「みどりの防衛隊」のみなさん(「花と緑のボランティア」登録団体)

#### おじさん7人でできることに着手！

私たちは生涯大学校で出会い、減りつつある流山の緑を取り戻すことをカリキュラムの課題に選んだグループです。市内の緑地を訪ね、行政にも学ぶといった研究活動を経て、昨年夏から市総合運動公園の竹林の整備に取り組み始めました。日本庭園のある小高い丘の斜面は竹の多い林ですが、残念なことに荒れ放題。子どもたちが虫とりに入れる安全な場所にするのが目標です。

#### 歩いて楽しい緑豊かなまちにしたい

散歩やランニングで通りかかる人の「きれいになりましたね」「ありがとう」という言葉は、緑を守る実践への共感なので心にしみます。私たちの活動はささやかですが、流山のステータスを上げることもつながると思います。こんなに利便性が高い流山の緑を保つには、みんなの思いと実践が必要。私たちも楽しく仲よく息長く、緑の防衛作戦を続けていきます。



### 孫世代が庭のことを 好きになってくれるとうれいいですね

#### インタビュー

米田佳子さん(ながれやまガーデニングクラブ花恋人会員)

4年前に「ながれやまガーデニングクラブ花恋人」に入会しました。一昨年から毎年オープンガーデンで自宅の庭を公開しています。昨年は3日間で1,000人弱のお客さんがいらして、いろんな方とおしゃべりできて、とても楽しかったです。広がるっていいなと思いました。

流山には40年ほど前に移り住んできたのですが、空気がいいですね。緑が多くてお散歩するにもいいまち。都心からわが家に帰ってくると疲れがとれます。庭に緑があるとほっとしますよ。

今から春に向けて自宅のエントランスを花で装飾しようとか、あれこれ考えていますが、最近では小学生の孫が遊びにきて、庭の手入れを手伝ってくれます。もう十分な戦力。孫と触れ合う時間が増えるのもうれしいし、将来、孫たちが庭を好きになってくれるといいですね。緑を愛でる伝統が孫世代に受け継がれていくといいなと思います。



### 井崎市長からのメッセージ

流山にはもともと豊かな緑がありましたが、区画整理事業を中心とした開発により次々と緑が失われていきました。こうした緑を少しでも回復するためには、「流山グリーン

いつまでも「都心から一番近い森のまち」であるために



流山市長 井崎 義治

ンチエーン戦略をはじめ、市民・事業者・行政が協働で緑を守り、つくるのが大切です。流山グリーンチェン認定は制度開始から9年が経ち、認定戸数は3600戸を超え、区画整理事業地内を中心に認定物件は増え続けています。緑は流山の財産であり、まちの価値を高めます。いつまでも「都心から一番近い森のまち」であるため、市民の皆様のご協力をお願いします。

### 花と緑の祭典 流山グリーンフェスティバル

#### 4,000個の花と野菜の苗でつくる花絵を展示

流山市の緑あふれる住環境を守り、さらに育てていくため、毎年ゴールデンウィークに、流山おおたかの森駅南口都市広場で「流山グリーンフェスティバル」を開催しています。

来場者が楽しめるステージやカフェだけでなく、地域の皆さんの力でつくり上げる「花絵」づくりや花苗販売、おおたかの森探検ツアーなどのイベントを通して、緑に触れ合うきっかけづくりをしています。

今年は、5月4日(祝)に開催予定です。詳細は、今後広報ながれやまなどでお知らせします。

☎マーケティング課 ☎7150-6308



昨年、開催した流山グリーンフェスティバル